

習志野市は、千葉県北西部に位置する人口約16.6万人、面積20.99km²の人口密度の高い都市です。明治に騎兵連隊などの軍施設が建設され、戦後は跡地が教育施設に生まれ変わり市内には千葉工業大学など3大学、4高校を有する文教都市として発展してきました。

一方で都市化が進むにつれて自然が損なわれて行き、その危機感からこの活動はスタートしています。地元有志数名で始めた活動でしたが、現在は178名の会員を有するまでになりました。



県文化財・旧鶴田家



伝承行事・ならし餅

最初から「実籾郷の会」の組織にできたのではなく、初めは水田を復活させ、森と畑と一体の自然循環形態を維持させようとしてきました。そして活動資金として、県の補助金交付を受けつつ、会員はボランティア活動として続けました。

同時に、自然に接する機会の少ない子ども達に、その米づくりの過程に参加してもらうことで、次世代に自然環境の大切さを伝えて行こうと、田植え・草取り・稲刈り・もちつき大会を企画し、会の重点項目として次の3点を掲げ、会員(年会費500円)を募集しました。

- 1, 実籾本郷公園及びその周辺の自然環境の保持、発展を図る。
- 2, 実籾地域に残る伝統行事の保持、伝承。
ならし餅・ひな祭り・こいのぼり・七夕・正月飾り
- 3, ホタル他、水性動植物の保全を図り、青少年の自然体験の場とする。



伝承行事・七夕飾り

活動資金は、収穫したもち米(例年約16俵)の売上げと市から委託された公園清掃費より得ています。

この活動により、この実籾地域の環境が保たれ、そこに参加される地域の人達(地元農家・自営業・市議・主婦・定年を迎えた人・子ども達)が誇りを持てる場が生まれています。

今後の課題としては、この活動を持続して行くための人材を如何にして確保するかです。会の発足当時60才代の人達はすでに70才、80才代に達しています。

若い人達の参加しやすい行事の見直し等 検討が必要な時期にきています。



5月 田植え



6月学習サポート・地元小学生



10月 収穫祭



自然体験教室・芋ほり



9月 稲刈り



自然体験教室・一日キャンプ



12月 正月飾りは収穫後のワラ

活動部門

自然環境の保全と環境教育

みもみさと 実籾郷の会

活動場所：千葉県習志野市実籾
本郷公園周辺

- 目的**
- 1, 実籾本郷公園及びその周辺の自然環境の保持、発展を図る。
 - 2, 実籾地域に残る伝統行事の保持、伝承
 - 3, ホタル他、水性動植物の保全を図り、青少年の自然体験の場とする。
- 活動**
- 米作り(田植え、草取り、稲刈り、)
 - 公園清掃(毎月1回)
 - 自然体験教室
 - 伝承行事
- 設立** 平成11年2月
- 体制** 会長(櫻井 宏) 副会長 庶務 会計 施設部
作業指導部 子ども部 研修部 会計監査
- 会費** 年間500円
- 会員数** 178名(平成28年1月現在)



応募代表者: **古月輝昭**
古月建築研究所 主宰

昭和50年東京電機大学工学部建築学科卒
昭和47年古月建築研究所設立
平成11年実籾郷の会 発足に参加
現在実籾郷の会 活動歴18年

都会では体験出来ない自然が習志野市には残っていましたが、今では田んぼも実籾地区だけになってしまいました。自然環境を残し子ども達に伝えようと市の休耕田を借りた活動も18年が経ちました。仕事の繋がりではない地域との連帯は、心休まるひと時でもあります。